

## 患者さんへ

## 「膀胱留置カテーテル挿入による膀胱刺激症状の実態調査結果の検討

## ～泌尿器科の術後患者に焦点をあてたアンケート調査から見えた課題～

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての以下の情報を公開することが必要とされています。

1 研究の対象	2024年10月より2024年11月までに和泉市立総合医療センター泌尿器科で手術(前立腺生検術、膀胱全摘出術以外)を受け、術後に膀胱留置カテーテルを挿入した方
2 研究目的・方法	<p>和泉市立総合医療センター7東病棟は、消化器外科・泌尿器科・形成外科・皮膚科の混合病棟であり、2023年度の手術件数は1864件でした。2023年度の看護研究の中で術後疼痛の調査を実施しましたが、創部の疼痛以外では、膀胱留置カテーテル挿入による疼痛が25%を占めていました。消化器外科・形成外科・皮膚科は患者さんの状態が落ち着くと翌日には膀胱留置カテーテルが抜去されます。しかし、泌尿器科手術の患者さんは尿量測定の際に、持続膀胱洗浄や術後出血の観察、膀胱留置カテーテルの閉塞予防などを目的としているため、抜去できない環境にあります。そのため、今回泌尿器科手術を受けた患者さんに焦点を当てた膀胱留置カテーテル留置による膀胱刺激症状(不快感、尿意、疼痛など)の内容を実態調査することで、看護の課題が見えると考えました。その課題に対し、膀胱留置カテーテルが抜去できなくても、看護師ができる関わりは何かを見出すことで看護の質の向上に繋げることができると考えました。</p> <p>この研究は、泌尿器科の手術を受ける患者さんの膀胱刺激症状について、患者さんに対して実施したアンケート調査結果と看護師が患者に向けて行った聞き取り調査結果から分析を行います。この分析結果から導かれる方法を看護に取り入れることにより、患者さんの不快感を事前に軽減できる可能性があると考えます。</p> <p>研究の期間:施設院長許可(2025年7月予定)後～2025年12月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「6. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	<p>下記の臨床情報を診療録より取得させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①看護師が聞き取り調査票を用いて患者に対して行った、膀胱留置カテーテルによる不快感や疼痛の有無、使用薬剤、患者の症状、反応等についての調査結果</li> <li>②膀胱刺激症状への対応としての鎮痛薬の使用状況</li> <li>③患者に対して実施した、膀胱刺激症状の内容、いつ頃に出現したか、どのような時に出現したか、精神的な苦痛があったか、症状は緩和されたか等についてのアンケート調査結果</li> </ul>

6 個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
6 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 和泉市立総合医療センター 看護部 看護師長 山本 直美(研究責任者) 住所:大阪府和泉市和気町 4-5-1 連絡先:0725-41-1331</p>

2025年8月7日作成(第1.1版)